

# SDGs浸透へ期待

## 園児回収の空き缶でキーホルダー

### 水沢工高 地域と連携、研究進める 機械3年

県立水沢工業高校（日當仁）校長、生徒376人の機械科3年生6人は、課題研究としてSDGs（持続可能な開発目標）に基づきアルミ缶を再利用したキーホルダーを作っている。21日には同校の実習室で最後の鑄造作業を実施。市内の園児が回収したアルミ缶を奥州市版シンボルマークへと生まれ変わらせ、SDGsの理念

浸透へ期待を込める。同科3年生は、グループごとに決めたテーマに沿って課題研究に取り組んでいる。キーホルダー製作班は、地域の団体や事業者らと連携し活動。市環境市民会議・奥州めぐみネットを講師に迎えた学習会でSDGsについて理解を深めたほか、市内企業の支援を得て鑄造技術や型を作るための3Dプリンターの

使い方や学んだ。材料となるアルミ缶は江刺の市立幼保連携型認定こども園稲瀬わかば園が回収に協力。90以上の袋三つ分を提供された。生徒たちは南部鉄器を作る技法でキーホルダーを製作。アルミ缶を約750度の炉で溶かし、砂で作ったキーホルダーの型に流し込んだ。キーホルダーのデザインには、広くS

てから砂から取り出すと、五角形の中にマークがきれいに浮かび上がった。鑄造作業は、9月16日から10月21日まで計4回行った。今後は着色などの仕上げに取り組み、約260個のキーホルダーを完成させる。同製作班リーダーの菊地駿太さん（18）は「最初の鑄造では、資源を再利用して形にできたことに感動した。空き缶を提供してくれたこども園の園児のためにも心を込めて製作した。キーホルダーを贈ることで、子どもたちがSDGsについて知るきっかけになればと期待した。キーホルダーは、12月に同園の園児たちにプレゼントするという。



水沢工高の生徒たちがアルミ缶を再利用して作ったキーホルダー